006
June 20.
1992

都市環境デザイン会議

発行者
都市環境デザイン会議事務局

東京都渋谷区広尾1-10-4
越山LKビル内 150
TELEPHONE
03-5420-5995
FACSIMILE
03-5420-5996

JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

JUDI NEWS

CONTENTS

●モニタープレメッセ'92の開催 — 1
●世界デザイン博以降の中部 — 2
●都市の川・矢作川新風景 — 3
●環境デザイン教育とその実践 — 4
●中部の主なプロジェクト — 5
●代表幹事会から — 6
●事務局だより — 6

モニタープレメッセ'92の開催

南條道昌
MICHIMASA NANJOH
㈱都市計画設計研究所

事業委員会

5月24日の臨時総会後，当日のイベントとして「モニター・プレメッセ」と銘打って事業委員会の第一号活動を行った。この聞き慣れない名称は，参集した会員の方々にも，参加いただいた企業の方々にも，どんなものを意味するのか良く解からなかったらしい。無理もない。メッセが見本市のようなものであることは想像できるが，これにモニターがつくとどんな内容になるのか見当がつかなくなるのは当たり前で，さらにプレがついているのだから想像の仕様がなくなるというものだろう。

仕組んだ意図はこんなことである。まず第一に，都市環境デザイン会議が行う事業は，ある意識を持った人々の集まりが，何らかの社会活動の一環として行うものであるから，外部の社会に対して意味のある語りかけの姿勢を持つものである必要があること。第二に，私達がひとりひとりではなく，集団をなしているという特性を活用する事業でありたいこと。第三に，事業であるからなんらかの収入があり，収支上ある程度の利益が期待でき，かつ事業は反復継続が可能であること。

一方で，企業が社会的に新製品や新技術を世に問う仕組みは，マスコミ・メディアに広告あるいは取材記事として掲載するか，D. M. で直接設計者・デザイナーにPRするか，業界の見本市に出し業界関係者との直接交流を図るか，足を頼りに直接的な売り込みを図るかであるが，前二者は媒体の制約からシンボル化された情報しかつたわらないこと，後二者は，的確な情報需要対象者との出会いの確率が著しく低いと言う難点があって，企業としてもより効果的な広報を図る機会の開拓に困っていると言う事情がある。

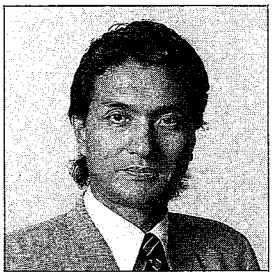
そこで，都市環境デザイン会議のような専門家集団の会合があるような機会を情報需要対象者が密度高く集まっている状態だと考えれば，この機会に私達集会者をモニターとして，企業が新情報を示し，それに対する反応をその場で知ることができるような仕組みを事業とすれば，その成立性は高いに違いない。会議は集団をなしている特性を活用することができる。企業は広報対象者として不足のない集団を相手に，極めて効果的なデモを行うことができ，尚且つその結果の反応を企業に報告あすることが容易であるから金を出しやすい。しかも，双方の情報交換によって都市環境を創って行くと言うことの具体的な語りかけを社会的に広めていることになる。一石三鳥の事業ではないか。

しかしながら，双方向の情報交換をしようとすると，時間消費が大きくなる。どの程度の情報量と企業数に耐えられるかよく解からない。このことをたしかめるためには，試行的に体験してみて，事業の構成の仕方の工夫の在り方を探るしかない。そこで，まずモニターメッセが考えられ，その試行的な実験という意味で，プレがついたのである。

ページ6に続く ⇨

世界デザイン博以降の中部

林　英光
HIDEAKI HAYASHI
愛知県立芸術大学



大学で環境デザインコースを担当。桃花台ニュータウン線のトータルデザイン。OZモールのデザイン。世界デザイン博の景観デザインなどに関わる。

■中部ブロックの特集は，今回は中部の西地域の報告にしぼり，次回は東地域の特集を考えている。また，読み易く，おもしろくしたいため，少々偏った内容としてみたことをご了承頂きたい。何回かの中で段階的に特集の内容を深めていきたいと思う．そこで今回は，会員の鵜飼さん，野田さん，伴丈さんにご登場願った．'88年の世界デザイン博覧会以降，中部のデザインに対する認識は一般的にもかなり高まり，全国一の出荷額を誇る愛知県では産業ばかりでなく，89年にデザイン都市宣言をした名古屋市を始め都市環境のデザインへの行政の取り組みも一段と熱がはいって来たようである．

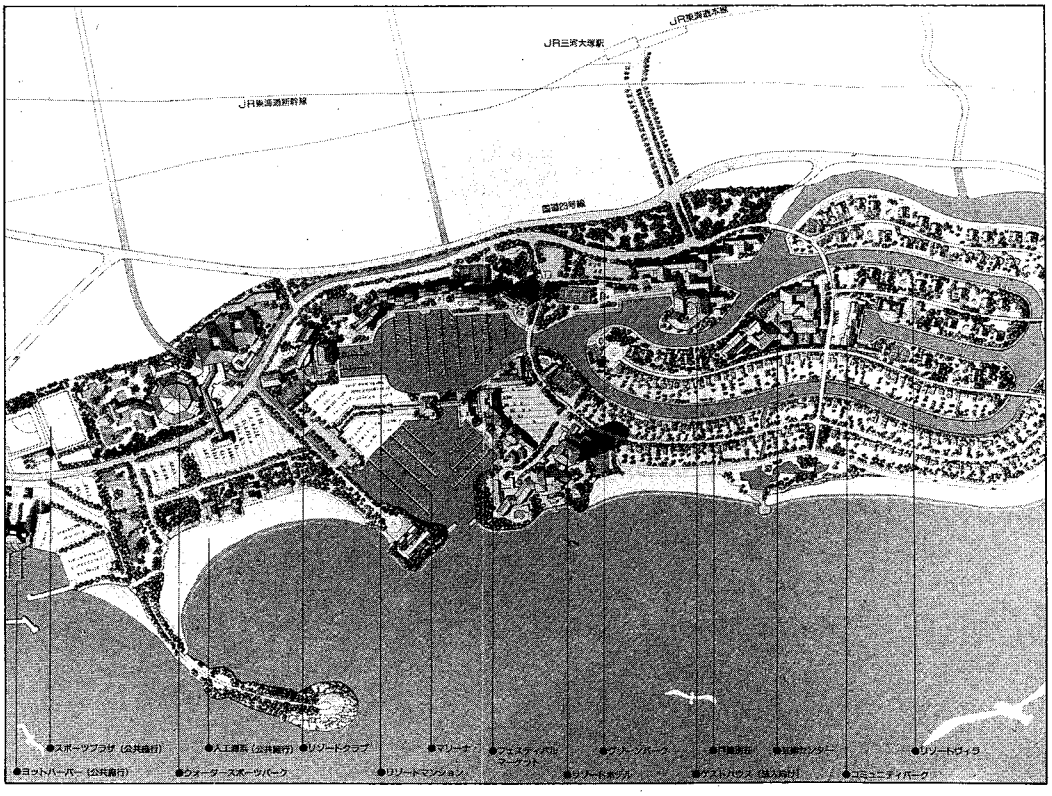
建設省の中部地建では，全国に先駆け'89年にシビックデザイン検討委員会を設置し，中部地建の各所長クラスが自己の管内で進行途中のプロジェクトを委員会で発表し，各委員会からの手厳しいアドバイスを受ける研究の場となっている．この実質的な会には多くのコンサルタントからも出席し傍聴している．ユニークで大変に進んだ試みであり，時には自分の関わっているプロジェクトがテーマに上げられ，冷汗をかいたこともある。何づれにしても私の出席している数ある委員会の中でも，楽しく真剣で魅力的な委員会である．このシビックデザイン委員会は，中部からスタートし本庁と各地建の組織へと発展していったのである。

第２回委員会
富士山大沢峡谷部の砂防対策（富士砂防），一般国道１号岡崎環境整備工事（愛知国道），庄内川のシビックデザイン（庄内川），一般国道２４６号裾野ＢＰ改築工事（沼津）
第４回委員会
境川排水機場（沼津），一般国道１９号神明交差点（多治見），忠節橋ラブリバー事業関連（木曽川上流），一般国道１号宇津ノ谷トンネル（静岡国道），太田切川流路工（天竜川上流），一般国道２１号岐南交差点（岐阜国道），大洞川流路工（多治見）
第５回委員会
下小笠川捷水路計画（浜松），新小和沢橋（新丸山ダム）
１号宇津ノ谷峠，５２号「平成の甲州口・追分」整備事業（静岡国道）

愛知県でも，景観マスタープランを練り上げ，'91年に完成した。内容もさることながら，計画，編集，装丁のデザインもかなり見やすく，工夫されていて良い。それでこそ生きた報告書，景観デザインの啓蒙普及に役立つ基となる。その考えに沿って，各市町村が独自の景観デザインの基本をつくりつつあり，歴史，風土，産業，文化をトータルに捉え，格調ある景観をつくり上げるためかなり腐心しているようである。今一つ，愛知県の最近のヒットは文化振興局の設置である。それは，従来の縦割行政を補うため，郷土芸能から都市づくりまでをトータルな文化として捉え，運用のできるようにつくられた各部局を横に貫く組織であり，100億の基金でスタートした。
この秋オープンする日本で初めての本格的オペラが上演できる愛知県芸術文化センターもその管轄下にある。そして，愛知万博誘致に向けて，全てが動き出したようである。

我国は平水域に恵まれながら水辺の魅力的な利用という面で先進国中最も遅れた国である。プレジャーボートの保有台数もニュージーランドの 100分の１の貧しさである。国土や水の汚染と質的な生活の貧しさが表れている。
東海地方は太平洋に面した長い海岸線と，水量の豊かな河川に愛知用水，明治用水，無数の農業用ため池など水に恵まれた地域である。リゾート法の指定を受けた中では，幸いにも計画の進んでいる三重県伊勢志摩地方のリゾート開発や，愛知県三河湾の「海の軽井沢構想」のような大型海洋リゾート計画など国内最大規模のプロジェクトがスタートした。景観や生態系の破壊，計画の必然性への疑問もある。しかし，汚れきった三河湾の水質向上のための作戦が同時に展開されていることは，希望の持てる方向といって良いのではなかろうか。先日，敗れはしたが初挑戦で予選１位になったアメリカズカップの日本挺の基地は，地元の人情と立地の良さで三河湾の蒲郡にあることも付け加えておきたい。

▲サンディエゴでの日本艇訓練



三河湾地域リゾート整備▷
の一例　海の軽井沢構想

都市の川・矢作川新風景

野田理吉
RIKICHI NODA
愛知県立芸術大学

名古屋市都市景観ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰを経て、現在豊田市都市景観ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
名古屋港景観専門委員

東海地方にはいくつかの有名な川があります。
全国的に河口堰問題で話題をふりまき注目を浴びている揖斐・長良・木曽川の３川は，濃美平野の西側を流れて日本を東西に分け伊勢湾に注いでいる一級の大きな河川です。
一方，平野の中央にはその昔「日吉丸伝説」で有名な東海道・矢作橋などが架かっている矢作川がゆったりと南北に流れて三河湾に注いでいます。
最近，仕事の関係で豊田市域矢作川付近に出かける機会が多く，その美しい流域の風景に感動を受け，今回この紙面を借りて紹介するものです。

矢作川の昔

愛知県土木部計画課の中根洋治氏らが中心となってまとめられた「矢作川」によりますと，矢作川という呼び名は承和二年(835年）に表わされているものが最も古く，また名前の起こりは古代の人達がこの地で弓矢を矧いだというところから名付けられたといわれています。
また，西三河地方が古代には「河」の国と呼ばれており，奈良時代に地名の改正で「御河」になり，現在の「三河」になったという地名の変遷もあります。
河川の利用は古くから生活に密着したものであり，中でも水運は他の河川と同様に昭和初期まで盛んに利用されていました。木材や塩，更には日用品など生活必需品の運搬が川船によって行われていました。
上り荷で最も重要なのは塩であり，足助に集積され運びやすい大きさに揃える「足助直し」が行なわれ，馬で信州に運ばれたとの事，また下り荷では木材や竹，石，炭あるいは柿，煙草などが運ばれ，とくに薪は河口付近の主要な産業である瓦や塩づくりの燃料になったそうです。
「五万石でも岡崎様はお城下まで船が着く」と歌われていることは当時の盛んな水運の状況を良く表わしているものといえるでしょう。
しかし，これらの水運も鉄道の発達やダムの出現で衰退しました。

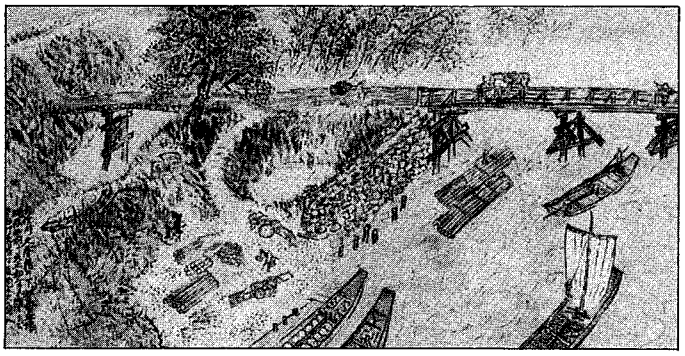
川の風景

源流付近の緑深い木々や岩々の間を流れ落ちる渓流から，ゆったりと蛇行して海に注ぐ河口付近までの様々な川の表情はその地域の特長ある風景を見せています。
現在の日本の代表的な陶磁器産業の地である瀬戸などの発展に影響を及ぼした古窯が発見されている猿投の山あいから矢作川は平野に下りてきています。
その地に豊田市は位置しており，市内の勘八峡から猿投山一帯は愛知県高原国定公園にも指定され，美しい自然が見られます。
川幅はそこで開放されたように広くなり，おだやかな田園風景の中から自然豊かな河川敷を残したままの都市中心部へ流れていきます。
その河川敷は現在市民の絶好の安らぎ空間となって親しまれています。

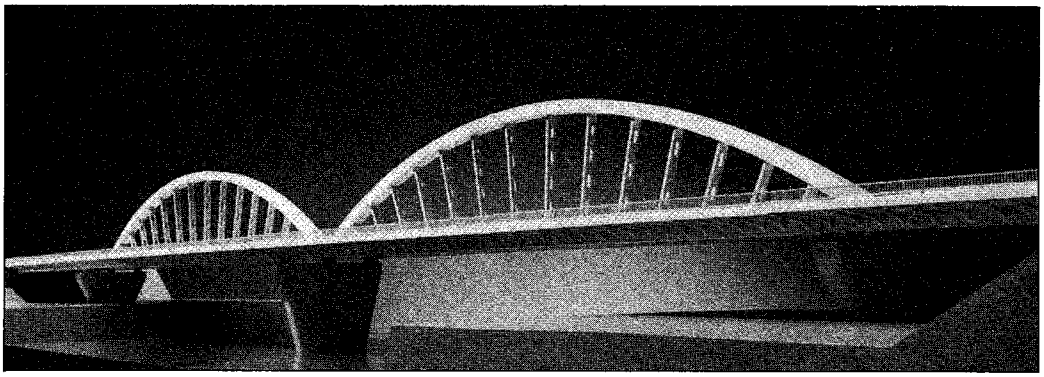
豊田市の三つの橋

最近，豊田市中心域に架かる橋梁の架け替や新橋建設計画が三橋もあり，新しい都市の顔となることでしょう。
いずれの橋もニールセンローゼ，単弦ローゼなど現代的なアーチ橋でその独自の美しい造形を競いあっています。
この地域の河川敷幅は300m近くありその橋のスケールも雄大でまさに豊田市のランドマークとなるでしょう。
三橋の中で最も上流に架かっている橋がニールセンローゼ桁の平成記念橋です。遠く都市の建築群を背景に張りのある二つのアーチと斜めに交叉した繊細なワイヤーが，田園風景に浮かびあがっている姿は大変美しいものです。
また，下流には現在工事中でまもなくその雄姿を現わす新久澄橋があります。
支部代表の林英光氏のデザインによる単弦ローゼのシンプルで力強いデザインの橋は，豊田市の中心道路である国道 301号線上に架かる橋であり，川東の高橋地区や工業団地，新興住宅地と都心を結ぶ重要な橋です。
それらの橋に挟まれるように駅前大通りの延長上に新たに計画されている橋が黒川紀章氏デザインの豊田大橋です。
大変斬新で有機的なフォルムを持ち橋上からの河川敷誘導などを積極的にデザインに取り入れた大胆な造形の橋です。
いずれもその美しさを競いあいながら新しい橋のある都市の風景を形づくっていくことでしょう。
これからの豊田市域矢作川に注目をしていただきたいものです。
また，この地方に来られた機会には是非足を運ばれることをお勧めします。

江戸時代初期（1661年）から大正元年（1912年）まで繋えた拳母土場川湊風景 ▷



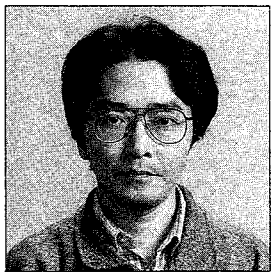
▽新しい吊材の形を試みた林英光氏の新久澄橋の模型



環境デザイン教育とその実践

── 人間生活とその空間を秩序づける ──

伴 丈 正 志
MASASHI BANJO
愛知県立芸術大学



4分の1世紀を経た大学

愛知県立芸術大学は，日本が高度経済成長期に入らんとする1966年4月，中部地方に特色のある文化圏の構築と，地方文化の向上発展に寄与すべく愛知県長久手村（現在は町）に創設された。本学は美術学部（90名），音楽学部（100名）及び美術研究科（20名），音楽研究科（16名）からなる芸術系大学である。我がデザイン専攻（35名）は陶磁専攻（10名，1989年度設置）とともにデザイン・工芸科をなくし，美術科と合わせて美術学部を構成している。

生活の道具から地域へ至るカリキュラム

こおでは，昨年度（91年）の環境デザイン教室の教育を紹介したい。専任教員スタッフは，林英光（都市デザイン・ランドスケープ），野田理吉（住宅・インテリア設計），著者（都市計画・居住環境計画），さらに客員教授として長大作（建築設計・家具デザイン）を招いている。学生数は3年7名，4年16名，大学院1年3名，2年4名であった。

①共通課題としての造形基礎研究

全学年を通じて，4月にはモノづくりの基本となる立体・色彩の基礎的な学習を行った。同じ立体をケント紙，粘土，石膏と仕上げ，さらにこの立体からイメージする形を色彩を用い平面構成する。そして，着色による建物スケッチ。対象は優れた近代建築様式である旧名古屋市控訴院裁判所庁舎（現名古屋市市政資料館）である。

②家具，インテリアからコミュニティ広場まで ── 3年次

同学年では段階的にスケールを越えて，空間の計画と表現方法について体得することを学習の目的とした。

旧山邑邸（F.L.ライト基本設計）の見学と図面コピー，巨匠建築家の住宅模型作成，自分の好きな空間のための椅子制作，既存商業ビル内のイタリアンレストランのインテリアデザイン，新旧住民のためのコミュニティ広場計画，さらに同年全教室のグループ学習の国際デザインセンターのアイデア構想である。このような身近な道具制作から4000㎡の広場計画までの空間の拡がりをもつ課題構成とした。

③住宅・地域計画そして卒業制作 ──── 4年次

同学年は卒業制作へ向けて学生がテーマを設定しうる課題を設けた。

住宅計画では，名古屋市本山地区の敷地を対象とする3世代の都市の住宅を課した。各自の定めた家族とその生活像をもとに場所の特性に対応した空間表現を求めた。地域計画は3～4人を単位とするグループ学習とし，三河湾に面する蒲郡市のウオーターフロント計画とした。教員が蒲郡市・愛知県三河湾務所の行政担当者からのヒアリングや海上見学を設定したが，学生は歴史・民俗資料の収集を積極的に行い，また地形や地域空間の特性を生かした成果が得られた。海中を利用する再生計画，海水の浄化と橋梁を組み合わせた湾岸公園計画，浮島の集合・離散によるリクリエーション空間計画，ウオーターロントの小・中学校移転計画であり，蒲郡市役所でも講評を行った。夏休み期間には自分の好きな空間・街のレポート，ついで卒業制作に向けての各自の学習成果を求めた。後期から卒業制作が始まる。例年，本教室の卒制は多彩であり，昨年度も照明器具，しつらえと照明による場の制作，家具・音具制作，建築計画，地域空間計画が愛知県立美術館に展示された。

④専門性を求めて ─ 大学院

大学院では各自の研究テーマに基づくカリキュラム構成となっている。院生が自主的に成果を提出し，それを検討するゼミナール方式で進めた。他に1年次に農村集落（長久手町大草地区）の空間構成に関するフィールド調査を行った。修了制作は地下鉄駅舎とその周辺環境計画，港再生計画，博物館計画，家具制作であった。

まちへ，むらへ出る

大学から比較的近距離である身近な空間の実体験を含め，学生の刺激となるような多様な見学ツアーを企画した。

課題では，様々な性格を有する建築・街・集落を見学や計画の対象とした。旧名古屋市控訴院裁判所庁舎をはじめ旧山邑邸，旧甲子園ホテル，三河湾と蒲郡，名古屋市内本山，覚王山地区，長久手町内丸根・大草地区などである。学外研修では奈良見学会（元興寺・東大寺・法隆寺・唐招提寺・今井町町並み・今西家）があり，さらに課外見学会として夏の2泊3日の中部縦断ツアー（永保寺・高山・白川郷・波平野・金沢町並み・諸江住宅・一乗谷遺跡・郡上八幡・小牧図書館など）を行った。

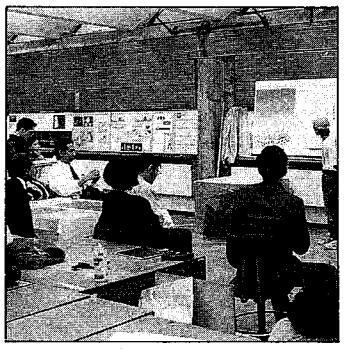
豊かなキャンパス空間の再発見

本学は名古屋の東に連なる丘陵地の中に，吉村順三・奥村昭男の計画・設計による豊かな自然を生かした役41㎡のキャンパスを持つ。個々の建築はローコストながら，建築的工夫が随所にみられ，特に配置計画は設計者の強い意志を感じさせ，建物間に作られた空間は絶妙である。

キャンパス空間は生きた環境デザイン教材である。前述のコミュニティ広場のスケールは，学内の図書館・食堂前の広場から選んだ。またアトリエ内には断面方向の床からの各所のスケールを書かせた。建築の構造・様式を伝える際もキャンパス内の建物を事例にすることが多い。

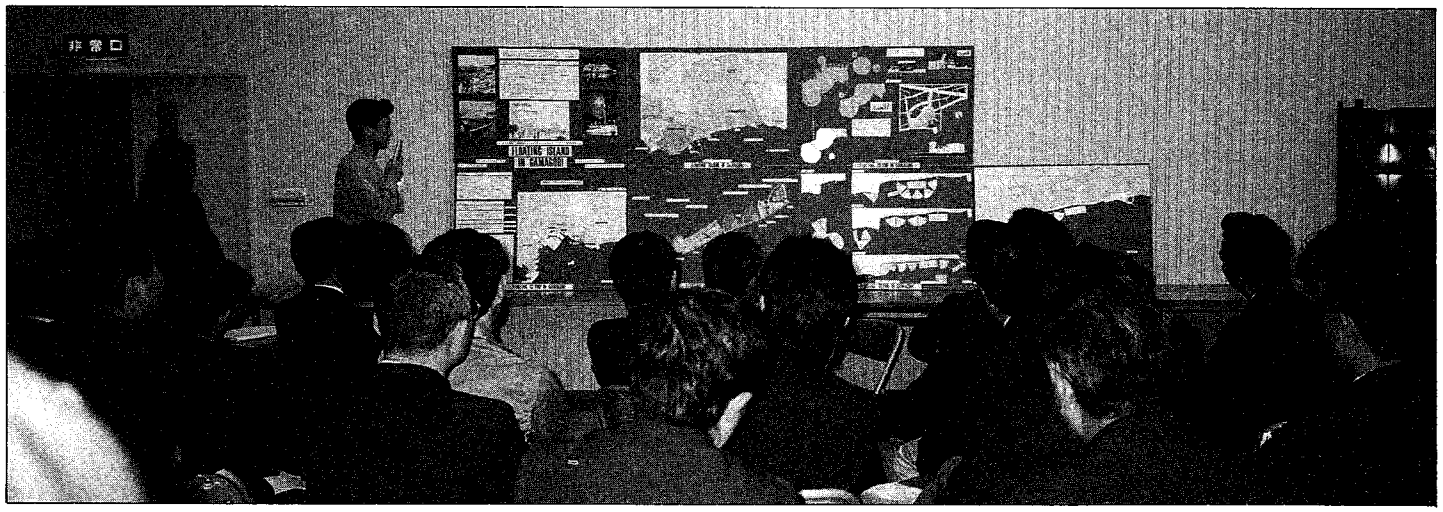
まとめにかえて

ヒトの生活と空間，ヒトとモノ，モノと空間，時間と空間などの諸関係を明らかにしつつ，人間生活とその空間を秩序づける環境デザインの教育を，学生とともに楽しく取り組んでいきたい。



講評風景 △

環境デザイン教室の学生による
三河湾ｳｫｰﾀｰﾌﾛﾝﾄ計画発表風景▽



中部の主なプロジェクト

── 国土の中枢としての役割をめざして ──

鵜飼増由
MASUYOSHI UKAI
愛知県土木部
道路建設課主査

中部地域は，日本列島の中心に位置しており，交通の利便性に優れているとともに豊富な水資源，勤勉な労働力に恵まれ，歴史的にわが国の産業技術の発展に先導的役割を果たしてきました。また，豊かな自然環境を有し，日本の屋根と言われる日本アルプスを中心とする山岳リゾート地や伊勢湾・三河湾や浜名湖を中心とする海洋リゾート地としてその機能を担ってきました。さらに，伝統芸能や都市文化集積などにも優れ地域での豊かな制圧を与えてきました。

近年，我が国の経済はグローバル化，ボーダレス化，ソフト・サービス化してきており，当該地域もこうした潮流の中で早急な対応を迫られてきております。

このような状況の中，産業や地域の活性化をめざしたさまざまな先導的プロジェクトが提言されております。ここの主なものを紹介しますと，まず交通・流通面からは第２東名・名神，リニア中央新幹線，中部新国際空港をあげなくてはなりません。またリゾート・観光・レクリエーション面では，愛知の「三河湾地域リゾート整備」，三重の国際リゾート「三重サンベルトゾーン」があげられ，さらに文化・イベントの分野では，西暦2005年目標の万国博覧会の誘致，長野の冬季オリンピック誘致(1966)三重の世界祝祭博覧会(1992)があげられます。その中で，第２東名・名神，リニア中央新幹線，中部新国際空港および愛知万博構想について少し述べさせていただきます。

まず，第２東名・名神でありますが，現在の東名・名神のバイパス的な役割をもち，増え続ける交通需要に対応すべく計画され，新たな産業・観光・情報そして人の交流の大動脈として近い将来日の目をみることでしょう。「安全」「快適」「高速」を旗印に掲げ，Easy curve, Gentle slope, 6 lane & Max speed 140km/h の質の高い交通手段としてグレードアップした高速道路です。

つぎに，リニア中央新幹線ですが現東海道新幹線の輸送力が飽和状態に近いので，磁気浮上式リニアモーターカーによる時速500km/h の高速運転により，東京～大阪間を１時間で結ぼうという構想であります。現在，山梨県で事業化に向けて本格的な実験線の建設が着実に進められており，21世紀の早い時期に実現されることが期待されております。

さて，つぎは空の玄関口，中部新国際空港構想。近年急激な伸びをみせている国際航空輸送に対応すべく関西新国際空港に続く計画として準備が進められています。平成元年３月伊勢湾東部海上（常滑市沖）に候補地も選定され，第７次空港整備５ヵ年計画での整備が待たれ，西暦2005年開港をめざしています。

最後に，21世紀万国博覧会（仮称）（通称愛知万博）。可能性と活力に満ちた中部圏として，前述の将来構想の実現をめざし，そして更に大きな発展につなげてゆくため，21世紀の幕開けにふさわしい万国博覧会を開催すべく，現在世界各国に働きかけを積極的に行っております。

このように，中部地域は関東と関西との狭間にあり，とかくその存在が希薄になりがちではありますが，中部が文字通り日本の中心としてイニシャティブを取り，日本を，世界をリードしてゆく時代が近づきつつあります。中部の底力に御期待下さい。

交通・流通

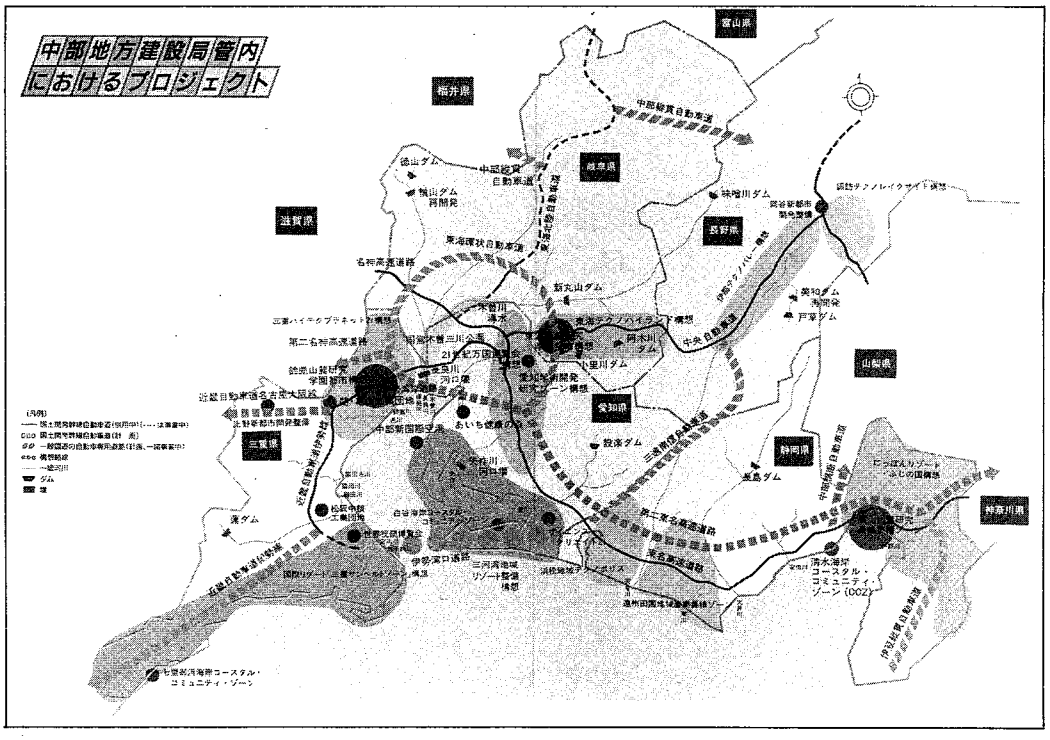
- 中部縦貫自動車道
- 中部横断自動車道
- 東海北陸自動車道
- 三遠南信自動車道
- 第２東名・第２名神
- 伊勢湾岸道路
- 伊勢湾口道路
- 東海環状自動車道
- 渥美半島縦貫道路
- リニア中央新幹線
- 中部新国際空港

リゾート・観光・レクリエーション

- 三河湾地域リゾート整備
  - 三河湾ポートルネッサンス21
  - 海の軽井沢
  - 渥美花の村
- 国際リゾート「三重サンベルトゾーン」
  - 伊勢戦国時代村
  - 志摩スペイン村
  - 五ヶ所湾ベイコミュニティ
  - 熊野灘レクリエーション都市
  - 七里御浜コースタルリゾート
  - 志摩複合リゾート

文化・イベント

- 世界祝祭博覧会
- ２１世紀万国博覧会
- あいち健康の森（仮称）



代表幹事会から

土田　旭
AKIRA TSUCHIDA
㈱都市環境研究所
代表幹事

■第２回定例総会及びシンポジウムのお知らせ

第２回定例総会とシンポジウムを下記要領で開催しますので是非出席して下さい。

日時：1992年７月18日（土）
午後１時～８時
場所：スクワール麹町
（四谷駅麹町口正面）
TEL:03(3234)8739

予定①第２回定例総会
91年度活動報告の件
役員選任の件
92年度活動方針の件
その他
②シンポジウム
「都市環境デザイナーの職能，教育，活動領域」
―― 都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾅｰ 像をさぐる ―
司会：　篠原　修
ﾊﾟﾈﾘｽﾄ：　曽根幸一，窪田陽一
蓑茂寿太郎，岡道也
伊藤清忠
③懇親会

本会議にはさまざまな分野，職能の人々が参加していますが，意外と各分野での活動，考え方，訓練等についてはお互いに知られていません。都市環境を総合的に捉える中で，デザインのあり方を探ってみたいと考えています。ご意見等をお持ちの方で一言ありという方は，事前に研究研修委員会まで（事務局）ご意見をお寄せいただければ幸いです。

■役員選挙について
すでにお知らせしたように臨時総会で規約変更と役員選出規定が承認されました。同時に，代表幹事会では規約にもとづき選挙管理委員として以下の７名の方を任命しましたのでお知らせします。

選挙管理委員　（ｱｲｳｴｵ順）
・植本俊介
・岸井隆幸
・倉田直道
・西脇敏夫
・宮前保子
・森　延彦
・吉田　博

これも既に選挙管理委員会から選挙通知がお手元に届いているとは思いますが，選挙スケジュールにご協力のほどお願いします。

■ブロック活動および委員会活動の積極参加の呼び掛け
別記にあるように，会員アンケートによれば，本会議への期待として都市環境デザインの社会的認知あるいは社会的運動があげられています。もとより代表幹事，ブロック幹事，委員会委員一同，この点について心しておりますが，発足間もないこともあり実質的活動への体制が整わず申し訳ないと思っています。本会議はもともと会員の一人一人の活動と積極的な関与によって成り立つものと考えますので，是非ブロックごとの例会への出席，委員会委員としての活動，あるいはＪＵＤＩニュースへの寄稿ないし情報提供等によって本会議の活動に参加されることを望みます。なお念のために申し添えれば，ブロック例会はどのブロック例会への参加も可能です。また，委員会への参加はできれば定例総会までにその旨事務局までお知らせ下さい。

1ﾍﾟｰｼﾞ「都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝﾓﾆﾀｰ・ﾌﾟﾚﾒｯｾ」より続き　⇨

第１回モニタープレメッセは，企業数10社，各企業持ち時間20分と言う形で構成してみた。10分説明，10分応答と言う形の想定である。この形式で行くと，合計３時間２０分の時間を双方向型で使うことになる。会場には１００人程度が座れるモニター用の座席と，１０社各１パネルの展示ブース，発表用のヴィデオＣＲＴ，オーバーヘッドプロジェクター等を用意した。参加申込のあった企業とその説明内容は，下記のとおりであった。

・川崎製鉄㈱，川鉄機材工業㈱
ﾕﾆｯﾄ式立体駐車場ＫＰﾊﾟｰｸ
・㈱クボタ，ポンプ技術部
水景施設
・㈱神戸製鋼所，機械ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ事業本部
スカイレールシステム
・清水建設㈱技術開発本部企画部
新しいカタチを求めて
・住友軽金属工業㈱アーバン事業部
アーバンファニチャー
・積水樹脂㈱景観事業部
天津橋
・大成建設㈱技術本部
緑と風と水の都市づくり
・㈱竹中工務店，首都圏部
都市を彩るガスアート
・東芝ﾗｲﾃｯｸ ㈱ｾｰﾙｽｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｾﾝﾀｰ
都市照明のあり方

説明内容のスタンスは各社まちまちであったが，モニター側との質疑応答を通じて，企業側のデザイナーと都市にかかわるデザイナーとのこれまでのコミュニケーションの無さや抱える問題が浮き彫りになり，相互のより良い関係を築いて行かなければならないことについての雰囲気が醸成された。

結果は，企業側にも，モニターをお願いした都市環境デザイナー側も，比較的好評であり，今後より良い形態を追及しつつ，双方のコミュニケーションを図る場づくりとして継続して行くことを考えねばならないと感じられた。■

事務局だより

これまで１年間，事務局を務めさせていただきましたが，一身上の都合（決して結婚退職ではない）で退職させていただくことになりました。短い間でしたが，大変お世話になりありがとうございました。都市環境デザインの重要性の社会的認知を高めるべく，会員の皆様のご活躍をお祈り致しております。　【片岡真実】

片岡さんの後を引き継ぐ事になりました。久々に社会に出て，浦島太郎の心境です。至らぬところも多いと思いますが，よろしくお願い致します。　【松田安子】

JUDI
NEWS
006
June
1992

発行者
都市環境デザイン会議
事務局

東京都渋谷区広尾1-10-4
越山LKﾋﾞﾙ内　150
TEL:03-5420-5995
FAX:03-5420-5996

広報委員会
井口勝文　上野　泰
江川直樹　大塚守康
榊原和彦　佐野　寛
菅　孝能　近田玲子
鳴海邦碩　林　泰義